

## 【R&Iグリーンボンドアセスメント】

ANAホールディングス株式会社 ANAホールディングスグリーンボンド

: GA1 予備評価

: セカンドオピニオン

(セカンドオピニオンとは、グリーンボンド原則等への適合性に関する意見です。)

格付投資情報センター(R&I)は上記のR&Iグリーンボンドアセスメント (GA1 (予備評価)、セカンドオピニオン) を公表しました。

### 【対象債券の概要】

名称	ANAホールディングスグリーンボンド
発行体	ANAホールディングス株式会社
発行額	100億円 (予定)
R&Iグリーンボンドアセスメント	GA1 (予備評価)
発行日	2018年10月 (予定)
償還日	2028年10月 (予定)

### 【概要】

国内最大の航空会社である全日本空輸を中核とするANAグループの持株会社。ANAグループでは、航空機からのCO<sub>2</sub>排出量削減等をはじめ、様々な環境活動に取り組んでいる。

今般、ANAホールディングスは、省エネルギー性能に優れた新設ビルである、総合トレーニングセンター (仮称) の建設資金を資金使途として、グリーンボンドの発行を検討しており、グリーンボンド原則 (Green Bond Principles) の4基準である、調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティングに関する発行体の対応方針であるグリーンボンドフレームワークを策定した。

### 【R&Iグリーンボンドアセスメント】

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、本グリーンボンドの調達資金が環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1 (予備評価) を付与した。なお、本件は予備評価であり、最終的な発行内容などを確認し、改めて評価を行う。

### 【グリーンボンド原則等に適合する旨のセカンドオピニオン】

また、グリーンボンドフレームワークがグリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものである旨のセカンドオピニオンを提供する。

なお、今回発行を検討している本グリーンボンドについて、債券の発行額や期間、具体的な対象事業・資産の内容や充当スケジュール等の内容を踏まえ、本フレームワークに則ったものとなっていることを確認している。

## 【評価理由】

- ・ 調達資金の使途は、2020年3月供用開始予定の総合トレーニングセンター（仮称）の新規建設資金。本トレーニングセンターは、太陽光発電設備やLED照明、高断熱・高気密ペアガラス等を備え、環境に配慮した設計となっている。東京都建築物環境計画書制度における省エネルギー性能の指標であるERR（Energy Reduction Ratio）の水準が33%と高い（3段階中最も高い段階3）。また、CASBEE（自己評価）でAランクの性能となっている。
- ・ R&Iは、本トレーニングセンターの省エネルギー性能や、開発にあたり周辺環境への配慮を行っていること等を確認し、調達資金の使途がグリーンボンドの資金使途として妥当と判断した。
- ・ プロジェクトの評価と選定は、ANAホールディングスの財務部門及びCSR部門にて部門横断的に検討が進められ、最終確認は、ANAホールディングスの社長総括のもと、「グループ・CSR・リスク・コンプライアンス会議」にて行われている。
- ・ 本トレーニングセンターの建設は、「2020年度末までに全事業所の総エネルギー消費量を年1%削減する」というANAグループの目標に則っている。また、ANAホールディングスは、本トレーニングセンターを通じて、ボーイング787型機やエアバスA320neo/A321neo型機等の省燃費機材の導入を促進し、CO<sub>2</sub>の排出削減を目指しており、これはANAグループの「有償輸送トンキロ当たりCO<sub>2</sub>排出量（国内線・国際線合計）を2020年度末までに2005年度比20%削減する」という目標に沿ったものとなっている。
- ・ 調達資金は2018年11月から2019年5月にかけて、全額が対象プロジェクトに充当される予定である。調達資金の管理は、ANAホールディングスの財務部門で行われ、調達した資金が対象プロジェクトに充当されたかが内部システムにて追跡管理される。また、財務担当役員による資金充当の確認が年次で行われる。未充当資金は、譲渡性預金等の安全性・流動性の高い資産で運用される予定である。
- ・ レポーティングは、同社ウェブサイトおよびアニュアルレポートにて、資金充当状況レポーティング及びインパクト・レポーティングが、年に一度償還まで（資金充当状況については充当完了まで）、開示される予定である。
- ・ ANAホールディングスは、早くから環境に関する方針・体制を構築し、航空機から排出されるCO<sub>2</sub>排出量の低減等の環境活動に積極的に取り組んでいる。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

## ■ 発行体(ANAホールディングス)の概要

ANA ホールディングスは、国内最大の航空会社である全日本空輸を中核とする ANA グループの持株会社。持株会社の下に、全日本空輸と並んで、それ以外の航空事業子会社や、航空関連事業、旅行事業などを担う会社を擁している。

ANA ホールディングスでは、早くから環境方針、環境体制を整え、積極的に環境活動に取り組んできた。2008 年には、世界の航空会社で初めて CO<sub>2</sub> 総排出量の削減目標（国内線）を設定する等の取組を行い、航空業界、運輸業界を通じて初めて、環境大臣より「エコ・ファースト企業」に認定されている。

環境活動のなかでも、航空機からの CO<sub>2</sub> 排出量削減に向けて力を入れて取り組んでおり、当時の全日本空輸（現 ANA ホールディングス）は、ボーイング 787 型機や次世代リージョナルジェット MRJ などの省エネルギー性能に優れた新世代機材のローンチカスタマー（初めての発注会社）となるなど、環境保全新技術を世界に先駆けて取り入れている。

ボーイング 787 型機は、旧来の主力中型機であったボーイング 767 型機に比較して、燃料消費量・CO<sub>2</sub> 排出量を約 20%、NO<sub>x</sub> を約 15%削減することができる省燃費機材である。全日本空輸は同機材を積極的に導入し、2018 年 8 月時点で、世界最大のボーイング 787 型機のユーザーとなっている。こうした省燃費機材の導入は、同社全体での有償輸送トンキロ当たり CO<sub>2</sub> 排出量削減に貢献している。

ANA グループでは、中長期計画「ANA FLY ECO 2020」において、2020 年度末までに有償輸送トンキロ当たり CO<sub>2</sub> 排出量（国内線・国際線合計）を 20%削減（2005 年度比）することを目指している。

長期的には、省燃費機材を積極的に導入していくこと等により、ICAO<sup>1</sup>及び IATA<sup>2</sup>が示す目標を見据え、2050 年に向けて CO<sub>2</sub> 排出量を抑制する方針である。例えば、国際航空分野において航空機で使用した燃料量を正確に把握し、第三者検証を受けて国に報告する MRV（モニタリング・報告・検証）の実行が求められていることを受けて、ANA グループでは航空機から地上システムに航空機の燃油搭載量データを確実に送信・把握できる機能を活用するなどの準備を進めている。また地上エネルギー使用量の低減に向けて、2017 年にグループ全体を対象とした新エネルギーデータ統括管理システムを導入するなど、正確な環境データの入力、モニタリング、分析を実施する体制を強化している。

ANA ホールディングスは、今回こうした取組みを幅広いステークホルダーに認知してもらうべく、グリーンボンドフレームワークを策定し、グリーンボンドの発行を検討している。

<sup>1</sup> International Civil Aviation Organization（国際民間航空機関）。国際連合経済社会理事会の専門機関の一つ。1947年に発足。ICAO では、CO<sub>2</sub>排出に関するグローバル目標として、1) 単位輸送量あたりのCO<sub>2</sub>排出量の年率2%の効率化を2050年まで継続 2) 2020年の排出水準を上限とし、以降、排出を増加させない（カーボンニュートラル成長）、を掲げている。

<sup>2</sup> International Air Transport Association（国際航空運送協会）。1945年に設立された世界の航空会社で構成される業界団体。IATA では、CO<sub>2</sub>排出に関するグローバル目標として、1) 2020年からCO<sub>2</sub>排出量のピークアウト 2) 単位輸送量あたりのCO<sub>2</sub>排出量の年率1.5%の効率化を2020年まで継続 3) 2050年には2005年対比CO<sub>2</sub>排出量の半減、を掲げている。

## ■ グリーンボンドフレームワーク(ANAホールディングスグリーンボンド)の概要

ANAホールディングスは、グリーンボンド発行にあたり、グリーンボンド原則（Green Bond Principles）の4基準である、調達資金の使途、プロジェクトの評価と選定のプロセス、調達資金の管理、レポーティングに関する発行体の対応方針であるグリーンボンドフレームワークを作成した。本フレームワークの概要は、以下の通りである。

### 1. 調達資金の使途：Use of Proceeds

- グリーンボンドの調達資金は、以下の選定基準を満たす事業に充当される予定である。

事業区分	事業名
グリーンビルディング	「総合トレーニングセンター(仮称)」の新規建設プロジェクト

- 「総合トレーニングセンター（仮称）」は、東京都大田区にて建設中の、世界最新鋭の訓練設備を有する訓練施設である。
- 本トレーニングセンターには、太陽光発電、LED照明器具、高断熱・高气密ペアガラス、屋上緑化、自然換気、高効率熱源機器、ビルエネルギーマネジメントシステム等を備え、環境に配慮した設計となっている。
- 東京都建築物環境計画書制度<sup>3</sup>における省エネルギー性能の指標であるERR<sup>4</sup>（Energy Reduction Ratio）の水準が33%（3段階中最も高い段階3）と高く、PAL\*低減率<sup>5</sup>が11%（段階2）であり、また、CASBEE<sup>6</sup>（自己評価）でAランクの性能となっていることから、高い省エネルギー性能を有すると考えられる。
- ビルの建設に伴う環境面からのネガティブな効果としては、工事に伴う騒音・振動、光害など周辺への悪影響が想定される。こうしたネガティブな効果に対して、本トレーニングセンターは環境関連の法律を順守して建設し、手続きの状況については設計・施工を行う鹿島建設からANAホールディングス及び全日本空輸へ定期的な報告がなされている。また、住民説明会を開催し、地域における健全な生活環境の維持及び保全への配慮について説明を行っている。
- ANAグループでは、法令順守、人権・多様性の尊重、環境への配慮等について定めた「社会への責任ガイドライン」に基づき、環境・社会に配慮した事業活動を行っている。

<sup>3</sup> 東京都が平成14年9月よりスタートさせた、建築物に係る環境配慮制度。一定規模以上の建築物の新築・増築の際に、環境配慮の取組を示した届出を計画時・完了時に提出することが義務づけられている。環境配慮の項目ごとに段階1～3(段階3が最上位)で評価される。

<sup>4</sup> 建物の一次エネルギー消費量について、基準値からの低減率を表す指標。

<sup>5</sup> 建物の外皮性能について、基準値からの低減率を表す指標。

<sup>6</sup> 「CASBEE」（建築環境総合性能評価システム）は、建築物の環境性能で評価し格付けする手法であり、2001年4月に国土交通省住宅局の支援のもと産官学共同プロジェクトとして発足した。評価結果は「Sランク（素晴らしい）」から、「Aランク（大変良い）」「B+ランク（良い）」「B-ランク（やや劣る）」「Cランク（劣る）」という5段階のランキングが与えられる。

## ＜対象事業の概要＞

項目	内容
主要用途	事務所等
延べ面積	敷地面積約 33 千㎡、建物面積約 59 千㎡
構造	S 造（鉄骨造）地上 8 階建て
着工	2017 年 7 月
供用開始予定	2020 年 3 月
設計・施工	鹿島建設
主な環境への配慮	太陽光発電、LED 照明器具、高断熱・高气密ペアガラス、屋上緑化、自然換気、高効率熱源機器、ビルエネルギーマネジメントシステム等の導入
主な環境認証等	東京都建築物環境計画制度 ERR：段階 3、PAL*低減率：段階 2、CASBEE 自己評価 A ランク相当
省エネルギー性能	一次エネルギー消費量…ERR：33% 外皮性能…低減率：11%
主に導入される訓練設備	フルフライトシミュレーター：パイロット向けに、悪天候や機体不具合事象を視覚に加えて実機と同様の動きでシミュレーションできる操縦訓練機器 モーションモックアップ：客室乗務員向けに、飛行中の揺れなどをリアルに再現できる日本初導入となる機内サービス訓練等を行う世界最新鋭の可動式機体訓練機器。

## ＜本トレーニングセンター設立の目的＞

- ANA ホールディングスは、将来の航空需要の増加に備え、本トレーニングセンターを新設し、フルフライトシミュレーターやモックアップ等の訓練設備を拡充する。
- 本トレーニングセンターでの訓練等により、経営の基盤である「安全」の堅持に取り組み、品質・サービスの源泉となる「人財」の育成を進める。
- ANA グループは、ボーイング 787 型機やエアバス A320neo/A321neo 型機を中心に、省燃費機材シェアを向上させ、中期的に単位当たり CO<sub>2</sub> 排出量（国内線・国際線合計）を削減する計画である。
- ボーイング 787 型機は、旧来の主力中型機であったボーイング 767 型機に比較して、燃料消費量・CO<sub>2</sub> 排出量を約 20%削減することができ、ANA ホールディングスは本トレーニングセンターを通じて、省燃費機材に関わる人員を養成し、同社全体での省燃費機材の導入促進につなげていくことを企図している。

## 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス: Process for Project Evaluation and Selection

- ANAグループでは、1998年に「環境に関する基本的な考え方」を整理し、「環境理念」を策定、2010年に「ANAグループ環境理念」を改定、2017年6月には「ANAグループ環境方針」を制定している。それらに基づき、中長期環境計画「ANA FLY ECO 2020」において、環境負荷低減に係る目標を掲げ、その進捗を管理している。
- 「ANA FLY ECO 2020」では目標の一つとして、全事業所の総エネルギー消費量を年1%削減する旨を掲げている。省エネルギー性能に優れた本トレーニングセンターの建設はこうした目標に則ったものとなっている。
- また、「ANA FLY ECO 2020」において、有償輸送トンキロ当たりCO<sub>2</sub>排出量（国内線・国際線合計）を2020年度末までに2005年度比20%削減することを目標としている。ANAホールディングスは本トレーニングセンターを通じて、省燃費機材の導入を促進し、CO<sub>2</sub>排出削減を目指しており、資金使途は上記目標に沿った事業である。
- 本トレーニングセンターの環境性能の高さや、環境・社会的リスクに配慮して建設されていること等から、本プロジェクトをグリーンボンドの対象事業として選定することが検討された。
- 評価と選定のプロセスについては、まずANAホールディングスの財務部門とCSR部門で部門横断的に行われたうえで、最終確認は、ANAホールディングスの社長総括のもと、ANAホールディングスおよびその子会社である全日本空輸等の常勤取締役・常勤監査役で構成される「グループCSR・リスク・コンプライアンス会議」によって行われている。

<ANA グループの環境に関する基本的な考え方、方針、目標について>

### 環境に関する基本的な考え方

- 環境を大切にすることは、私たち自身が地球に負荷をかけていることの自覚から始まります。
- 私たちは、資源とエネルギーを大切に利用し、豊かで持続可能な社会の創造に貢献します。
- 私たちは、率先して環境保全に取り組み、地球を想う心を世界の人々と分かち合います。

### ANA グループ環境方針

ANA グループは地球温暖化対策や生物多様性の保全等の地球環境への取り組みを重要な経営課題と認識し、グループのあらゆる企業活動を通じて、環境リーディング・エアライングループを目指します。

- 企業活動が環境に与える影響を正確に把握・分析し、社会に開示します。
- 法令遵守に留まらず、広くステークホルダーと対話を重ね、社会の要請に基づき環境保全に取り組みます。
- あらゆる業務において環境負荷の低減に努め、積極的に新技術・サービスを検討し導入に努めます。
- サプライチェーンの環境配慮にも常に注意を払い、環境に配慮した調達を推進します。
- 3R (Reduce Reuse Recycle) と廃棄物管理を強化し、循環型社会の実現に貢献します。
- 環境保全活動への社員参加を促進し、社員一人ひとりの意識向上を図ります。



## 「ANA FLY ECO 2020」の目標と2017年度の実績

項目	目標	2017年度の実績
地球温暖化対策	航空機燃料によるCO <sub>2</sub> 排出量の低減	
	・単位あたり目標 有償輸送トンキロ当たりCO <sub>2</sub> 排出量(国内線・国際線合計)を2021年3月期までに、2006年3月期比で20%削減	・2018年3月期は、2006年3月期比で23%削減 参考：排出総量1148万トン(前期比3%増) 有償輸送トンキロ当たり0.96まで削減
	・総量目標 国内線2013年3月期～2021年3月期のCO <sub>2</sub> 排出量を年平均440万トン以内に抑制	・413万トンに抑制
	事業所使用エネルギーの削減	
	・全事業所の総エネルギー消費量 年1%削減(改正省エネルギー法への対応)	・原単位当たりで前期比4.7%削減(速報値)
	代替航空燃料の導入	
	・2021年3月期までの本格使用開始の検討	・道筋検討委員会に参加、2020年東京オリ・パラ開催時に バイオジェット燃料で飛行する日本国の計画に参画 ・ユーグレナなどの非植物系原料による燃料の研究・開発の継続支援
大気汚染対策	航空機の排出ガス基準適合	
	・航空機(リース機を含む)の全機ICAO排出ガス基準適合	全機適合
	低公害車の導入	
	・低公害車の積極導入と、バイオ燃料使用の検討	・低公害・低燃費車(*)をグループ全社の自動車全保有数4,283台中、 1,779台導入(全体の41.5%) ※燃料電池車、電気自動車、ハイブリッド車、排ガス規制適合車
騒音対策	・リース機を含め全機ICAO騒音基準チャプター4に適合	全機適合
省資源化の促進	・廃棄物削減、営業用紙含めペーパーレスの推進	・廃棄物総量：32.1千トン(前期比23%削減) ・産業廃棄物：3.7千トン(前期比27%削減) 産業廃棄物は、廃プラスチックが1千トン減少
	・機内誌などのクローズド・リサイクルをはじめとする3R活動の促進	紙類の総使用量：4.0千トン 前期より600トン減少 省資源・リサイクル活動に引き続き取り組み廃棄物の削減に努める
環境保全活動	・地域・社会に新たな価値を提供し、 貢献できる持続可能な森づくり	・宮城県南三陸町「ANA こころの森」グループ社員ボランティアによる 森づくり活動の実施(年2回(7月、10月)、7月はホーキング日本支社との コラボ活動を継続実施) ・東日本大震災の津波被害を受けた宮城県名取市「海岸林再生プロジェクト」 実施(年1回、6月)、グループ社員ボランティアに加えANAマイレージクラブ 「環境サポートマイル」寄付(実績、約70万円)にて継続支援を実施
	・「チーム美らサンゴ」によるサンゴ再生プロジェクトを 通じた環境啓発活動の強化	・「チーム美らサンゴ」植え付けイベント開催(年4回、5、6、10、11月)、 参加ボランティア258人、伸び参加者3,207人、延べ植え付け本数8,906本 また、今年度から新たにサンゴの産卵を観察するナイトダイビングイベント (年1回、6月)を開催した。 ・ANAマイレージクラブ「環境サポートマイル」(実績、苗約300本分)、ANAダイア モンド会員によるサンゴの苗木の寄付継続支援実施

### 3. 調達資金の管理 : Management of Proceeds

- ・ グリーンボンドで調達した資金は、2018年11月から2019年5月にかけて、全額が対象事業に充当される予定である。
- ・ 調達資金の管理は、ANAホールディングスの財務部門で行われ、調達した資金の対象プロジェクトへの充当状況が、ANAホールディングスの内部システムを用いて追跡管理される。調達した資金は、グリーンボンドが償還されるまでの間、対象事業への充当額と未充当資金の額の合計と整合するか、定期的に確認が行われる。また、財務担当役員による資金充当の確認が年次で行われる。
- ・ 未充当資金は、譲渡性預金等の安全性・流動性の高い資産で運用される予定である。

### 4. レポーティング : Reporting

- ・ ANAホールディングスは、グリーンボンドの発行後、同社のウェブサイト及びアニュアルレポートにて、資金充当状況レポーティング及びインパクト・レポーティングについて年に1回、開示する予定である。
- ・ 資金充当状況については、調達資金が全額充当されるまで、プロジェクトへの充当額とプロジェクトの説明が公表される。
- ・ インパクト・レポーティングについては、償還までの期間、守秘義務の範囲内かつ合理的に実行可能な限りにおいて、以下の情報を公表する。

<対象事業に関するもの>

- ① エネルギー使用量 (原油換算 : 万kl)
- ② エネルギー種類別使用実績 (電力 : kWh/ガス : m<sup>3</sup>)
- ③ CO<sub>2</sub>排出量 (t)
- ④ 太陽光発電による発電量 (kWh)
- ⑤ 水道使用量 (m<sup>3</sup>)

<対象事業に付随する情報>

- ⑥ 全機材に占める省燃費機材のシェア (%) (ANAブランドのみ)
- ⑦ 有償輸送トンキロ当たりCO<sub>2</sub>排出量 (kg-CO<sub>2</sub>/RTK) (国内線・国際線合計) (ANAブランドのみ)



## ■ グリーンボンドフレームワークに対する評価（セカンドオピニオン）

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法に則り、ANAホールディングスの作成するグリーンボンドフレームワークが、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に適合しているか否かの確認を行った。

### 1. 調達資金の用途: Use of Proceeds

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、まず調達資金の充当先である対象事業が、環境問題の解決に資する事業である必要がある。

#### 主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認
- ・ 東京都建築物環境計画書制度における計画書
- ・ 建設計画に関する資料
- ・ 法令の遵守状況や周辺環境への配慮に関する資料

#### 評価

- ・ 本フレームワークでは、調達資金は2020年3月に供用開始予定の、総合トレーニングセンター（仮称）の新規建設資金に充当される。
- ・ R&Iは、本トレーニングセンターの省エネルギー性能（一次エネルギー消費量、外皮性能）を東京都建築物環境計画書制度における計画書の数値から確認を行った。
- ・ 本トレーニングセンターのERRは33%、PAL\*低減率は11%であり、それぞれ本制度上の段階3、段階2に相当する。東京都建築物環境計画書制度における当該項目の評価区分は下記の通り。（本ビル用途は事務所等であり、用途1に該当する）

段階	考え方	ERR (用途 1) ※	ERR (用途 2) ※	PAL*低減率
3	環境負荷の低減に最も優れた効果を有するレベル	30%以上	25%以上	20%以上
2	環境負荷の低減に段階 1 よりも高い効果を有するレベル	20%以上 30%未満	20%以上 25%未満	10%以上 20%未満
1	建築主が適合すべき最低限のレベル	0%以上 20%未満		0%以上 10%未満

※用途 1：事務所等、学校等、工場等      用途 2：ホテル等、病院等、飲食店等、集会所等

- ・ また、本ビルにて予定されている太陽光パネルの設置や自然換気システム等の計画について確認を行った。
- ・ 以上より、新築の一般的な建築物と比較して十分な環境性能が想定されると判断した。
- ・ また、建設時における各種法令の遵守及び周辺環境への配慮状況や、住民説明会の開催等の内容より、本トレーニングセンターが環境に与えるネガティブな影響は軽減されていると判断した。

以上より、本フレームワークにおける調達資金の用途は、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

## 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス: Process for Project Evaluation and Selection

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、発行体がなぜ対象事業を環境問題に資する事業であると考え、どのようにして選定したのかというプロセスが、明確かつ合理的である必要がある。

### 主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認
- ・ ANAグループの環境に関する基本的な考え方
- ・ ANAグループの環境方針
- ・ ANAグループの中長期環境計画「ANA FLY ECO2020」

### 評価

- ・ 対象事業はANAグループの環境に関する基本的な考え方、環境方針及び中長期環境計画に則ったものとなっている。
- ・ 対象事業は、十分な環境改善効果が見込め、環境面や社会面における潜在的にネガティブな効果に対する配慮がなされている。
- ・ プロジェクトの評価と選定は、本トレーニングセンターの環境性能を踏まえ、財務部門とCSR部門で協議され、最終的に「グループ・CSR・リスク・コンプライアンス会議」にて確認が行われており、妥当なプロセスを経て決定している。

以上より、本フレームワークにおける対象事業の選定のプロセスは、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

### 3. 調達資金の管理: Management of Proceeds

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資されるためには、調達資金が他の事業に使われず、確実に対象事業に充当される必要がある。

#### 主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認

#### 評価

- ・ ANAホールディングスは、調達資金が対象事業に充当されるよう、内部システムにて追跡管理を行い、グリーンボンドの償還まで、対象事業への充当額が調達資金を上回っていることを定期的に確認する予定である。調達資金の管理方法は、適切に定められている。
- ・ 対象事業への充当計画は、調達から1年以内に充当される予定であり、適切に定められている。
- ・ 未充当資金は、譲渡性預金等、安全性・流動性の高い資産で管理される予定であり、適切な計画が定められている。

以上より、本フレームワークにおける調達資金管理の方針は、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

### 4. レポーティング: Reporting

グリーンボンドの調達資金が、調達後環境問題の解決に資する事業に投資されたことが明らかとなるためには、どのような事業にいつ充当され、その結果どのような環境改善効果があったかを、発行体がレポーティングすることが期待される。

#### 主な評価の根拠

- ・ 本フレームワークの内容の確認

#### 評価

- ・ 本グリーンボンドのレポーティングは、年に一度、ANAホールディングスのウェブサイト及びアナニュアルレポートにて開示される予定である。その内容は資金充当状況レポーティングと対象事業のインパクト・レポーティングであり、妥当な内容となっている。

以上より、本フレームワークにおけるレポーティングは、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

## ＜総合評価＞

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法に則り、本フレームワークが、グリーンボンド原則2018及び環境省のグリーンボンドガイドライン2017年版に則ったものとなっていると判断した。

本セカンドオピニオンは、今回発行するグリーンボンドにのみ適用されるものであって、2回目以降に発行される際には、再度確認の上ニュースリリースを行う。

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 22 番地 テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&I グリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメント（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき <https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。

## ■ 本グリーンボンドに対する評価

R&Iは、R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法に則り、本グリーンボンドにおいて予定されている発行額や期間、具体的な対象プロジェクトの内容や充当スケジュール等が、本フレームワークの内容に則ったものとなっているか確認を行った。また、本フレームワークの内容や本グリーンボンドにおける具体的な対応の内容を踏まえ、本グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する評価を行った。

### 1. 調達資金の使途: Use of Proceeds

- ・ 本グリーンボンドの対象プロジェクトは、本フレームワークにて定められる通り、2020年3月に供用開始予定の総合トレーニングセンター（仮称）の新規建設資金である。
- ・ R&Iは本事業から生じる環境改善効果及び、環境面における潜在的にネガティブな効果への配慮状況を確認した。
- ・ この結果、十分な環境改善効果が見込まれ、ネガティブな効果への配慮が行われていることを確認した。
- ・ また、対象事業への資金充当額は、グリーンボンドで調達する予定金額を十分に上回ることを確認した。

以上より、本グリーンボンドの資金使途は、環境問題の解決に資する程度が優れていると判断した。

### 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス: Process for Project Evaluation and Selection

- ・ 本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、プロジェクトが選定される予定であることを確認した。
- ・ R&Iは、本グリーンボンドのプロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると判断した。

### 3. 調達資金の管理: Management of Proceeds

- ・ 本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、調達資金が管理される予定であることを確認した。
- ・ R&Iは、本グリーンボンドの調達資金の管理方法は、適切に定められており、優れていると判断した。

### 4. レポーティング: Reporting

- ・ 本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、レポーティングが行われる予定であることを確認した。
- ・ R&Iは、本グリーンボンドのレポーティング方針は、内容、頻度の面から優れていると判断した。

## 5. 発行体の環境活動

グリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度は、発行体の環境活動への取組み姿勢や取組み実績が影響すると考えられる。これは、環境活動に関心が高く実績のある発行体の方が、調達資金を環境問題の解決に資する事業に充当し、遂行する可能性が高いと考えるためである。

- ・ ANAホールディングスは、環境に関する方針・体制を早くから構築し、省燃費機材の導入を積極的に推進する等、航空業界の中では先進的な環境活動に取り組んでいる。
- ・ 環境活動への取組み姿勢は特に優れていると判断した。

## ＜総合評価＞

以上より、本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき発行される予定であり、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版の 4 要件に適合したグリーンボンドであると判断した。

また、R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに則り、本グリーンボンドの評価を行った。各項目の評価を基に総合評価を行い、R&I は評価対象のグリーンボンドの調達資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1（予備評価）を付与した。各項目における評価は、以下の通りである。

### 【項目別評価】

各項目を5段階で評価し、（最上位）から（最下位）で表示している。

項目	評価	概要
調達資金の使途		対象となるトレーニングセンターは、十分な環境改善効果が見込めるほか、環境面における潜在的にネガティブな効果に配慮がなされている。環境問題の解決に資する程度が優れていると判断した。
プロジェクトの評価と選定のプロセス		本グリーンボンドのプロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると判断した。
調達資金の管理		本グリーンボンドの調達資金の管理方法は、適切に定められており、優れていると判断した。
レポートイング		本グリーンボンドのレポートイング方針は、内容、頻度の面から優れていると判断した。
発行体の環境活動		環境に関する方針・体制をはやくから構築し、省燃費機材の積極的な導入、CO <sub>2</sub> 排出量削減の推進等、進んだ取り組みを行っている。発行体の環境活動への取り組み姿勢は、特に優れていると判断した。

R&Iグリーンボンドアセスメントの評価方法は以下のホームページに公開されています。

[https://www.r-i.co.jp/rating/products/green\\_bond/assessment.html](https://www.r-i.co.jp/rating/products/green_bond/assessment.html)

R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対するR&Iの意見です。R&Iグリーンボンドアセスメントでは、グリーンボンドフレームワークに関してのセカンドオピニオンを付随的に提供する場合があります。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定される関連業務（信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務）です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。

R&Iグリーンボンドアセスメントは、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではなく、またそのように解されてはならないものであるとともに、投資判断や財務に関する助言を構成するものでも、特定の証券の取得、売却又は保有等を推奨するものでもありません。R&Iグリーンボンドアセスメントは、特定の投資家のために投資の適切性について述べるものでもありません。R&IはR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際し、各投資家において、取得、売却又は保有等の対象となる各証券について自ら調査し、これを評価していただくことを前提としております。投資判断は、各投資家の自己責任の下に行われなければなりません。

R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報は、R&Iがその裁量により信頼できると判断したものであるものの、R&Iは、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。R&Iは、これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。

R&Iは、資料・情報の不足や、その他の状況により、R&Iの判断でR&Iグリーンボンドアセスメントを保留したり、取り下げたりすることがあります。

R&Iは、R&IがR&Iグリーンボンドアセスメントを行うに際して用いた情報、R&IのR&Iグリーンボンドアセスメントその他の意見の誤り、脱漏、不適切性若しくは不十分性、又はこれらの情報やR&Iグリーンボンドアセスメントの使用、あるいはR&Iグリーンボンドアセスメントの変更・保留・取り下げ等に起因又は関連して発生する全ての損害、損失又は費用（損害の性質如何を問わず、直接損害、間接損害、通常損害、特別損害、結果損害、補填損害、付随損害、逸失利益、非金銭的損害その他一切の損害を含むとともに、弁護士その他の専門家の費用を含むものとします）について、債務不履行、不法行為又は不当利得その他請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、いかなる者に対しても何ら義務又は責任を負わないものとします。R&Iグリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。

R&Iが評価対象の評価に用いる評価方法は、R&Iが独自の分析、研究等に基づいて作成したR&Iの意見の表明にすぎず、R&Iは、評価方法の正確性、適時性、網羅性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明又は保証をするものではありません。また、R&Iは、評価方法の開示によって、いずれかの者の投資判断や財務等に関する助言を行い、又は投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、評価方法の内容、使用等に関して使用者その他の第三者に発生する損害等につき、請求原因の如何やR&Iの帰責性を問わず、何ら責任を負いません。評価方法に関する一切の権利・利益（特許権、著作権その他の知的財産権及びノウハウを含みます）は、R&Iに帰属します。R&Iの事前の書面による許諾無く、評価方法の全部又は一部を自己使用の目的を超えて使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）し、又は使用する目的で保管することは禁止されています。



## グリーンボンド／グリーンボンド・プログラム

### 独立した外部レビューフォーム

#### セクション 1. 基本情報

発行体名：ANA ホールディングス株式会社

グリーンボンドの ISIN 又は 発行体のグリーンボンド発行に関するフレームワーク名（該当する場合）：

独立した外部レビュー実施者名：格付投資情報センター

本フォーム記入完了日：2018年9月28日

レビュー発表日：2018年9月28日

#### セクション 2. レビュー概要

##### レビュー範囲

必要に応じて、レビューの範囲を要約するために以下の項目を利用又は採用する。

本レビューでは、以下の要素を評価し、グリーンボンド原則（以下、GBP）との整合性を確認した：

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング           |

##### 独立した外部レビュー実施者の役割

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証                            |
| <input type="checkbox"/> 検証                   | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：        |  |

注記：複数のレビューを実施又は異なる複数のレビュー実施者が存在する場合、それぞれ別々の用紙にご記入ください。

Latest update: June 2018

レビューのエグゼクティブサマリーおよび/またはレビュー全文へのリンク (該当する場合)

**【R&I グリーンボンドアセスメント】**

R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに定める評価方法に従い、本グリーンボンドの調達資金が環境問題の解決に資する事業に投資される程度が非常に高いと判断し、GA1 (予備評価) を付与した。なお、本件は予備評価であり、最終的な発行内容などを確認し、改めて評価を行う。

**【グリーンボンド原則等に適合する旨のセカンドオピニオン】**

また、グリーンボンドフレームワークがグリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に則ったものである旨のセカンドオピニオンを提供する。

レビュー全文は、本リリースの本文を参照。

### セクション 3. レビュー詳細

レビュー実施者には可能な限り以下の情報を提供し、レビュー範囲を説明するためにコメントセクションを利用するよう推奨する。

#### 1. 調達資金の使途

セクションに関する全般的なコメント (該当する場合) :

**<本フレームワークについて>**

本フレームワークでは、調達資金は 2020 年 3 月に供用開始予定の、総合トレーニングセンター (仮称) の新規建設資金に充当される。

R&I は、本トレーニングセンターの省エネルギー性能 (一次エネルギー消費量、外皮性能) を東京都建築物環境計画書制度における計画書の数値から確認を行った。

本トレーニングセンターの ERR は 33%、PAL\*低減率は 11% であり、それぞれ本制度上の段階 3、段階 2 に相当する。東京都建築物環境計画書制度における当該項目の評価区分は下記の通り。  
(本ビル用途は事務所等であり、用途 1 に該当する)

段階	考え方	ERR (用途 1) ※	ERR (用途 2) ※	PAL*低減率
3	環境負荷の低減に最も優れた効果を有するレベル	30%以上	25%以上	20%以上
2	環境負荷の低減に段階 1 よりも高い効果を有するレベル	20%以上 30%未満	20%以上 25%未満	10%以上 20%未満
1	建築主が適合すべき最低限のレベル	0%以上 20%未満		0%以上 10%未満

※用途 1：事務所等、学校等、工場等、用途 2：ホテル等、病院等、飲食店等、集会所等

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

格付投資情報センター 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 22 番地 テラスクエア <https://www.r-i.co.jp>

R&I グリーンボンドアセスメントは、グリーンボンドで調達された資金が、環境問題の解決に資する事業に投資される程度に対する R&I の意見であり、事実の表明ではありません。対象事業の環境効果等を証明するものではなく、環境効果等について責任を負うものではありません。R&I グリーンボンドアセスメントは、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第 299 条第 1 項第 28 号に規定される関連業務 (信用格付業以外の業務であって、信用格付行為に関連する業務) です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置と、信用格付と誤認されることを防止するための措置が法令上要請されています。R&I グリーンボンドアセスメントは、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメントに際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&I は、R&I グリーンボンドアセスメント (変更・取り下げ等を含む) に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。R&I グリーンボンドアセスメントは、原則として申込者から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき <https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧下さい。

また、本ビルにて予定されている太陽光パネルの設置や自然換気システム等の計画について確認を行った。

以上より、新築の一般的な建築物と比較して十分な環境性能が想定されると判断した。

また、建設時における各種法令の遵守及び周辺環境への配慮状況や、住民説明会の開催等の内容より、本トレーニングセンターが環境に与えるネガティブな影響は軽減されていると判断した。

以上より、本フレームワークにおける調達資金の使途は、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に則ったものとなっていると判断した。

#### <本グリーンボンドについて>

本グリーンボンドの対象プロジェクトは、本フレームワークにて定められる通り、2020年3月に供用開始予定の総合トレーニングセンター（仮称）の新規建設資金である。

R&Iは本事業から生じる環境改善効果及び、環境面における潜在的にネガティブな効果への配慮状況を確認した。

この結果、十分な環境改善効果が見込まれ、ネガティブな効果への配慮が行われていることを確認した。

また、対象事業への資金充当額は、グリーンボンドで調達する予定金額を十分に上回ることを確認した。

以上より、本グリーンボンドの資金使途は、環境問題の解決に資する程度が優れていると判断した。

#### GBPによる調達資金の使途カテゴリ：

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー   | <input type="checkbox"/> エネルギー効率                        |
| <input type="checkbox"/> 汚染防止および管理   | <input type="checkbox"/> 生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管理        |
| <input type="checkbox"/> 陸上および水生生物の多様性の保全  | <input type="checkbox"/> クリーン輸送                         |
| <input type="checkbox"/> 持続可能な水資源および廃水管理   | <input type="checkbox"/> 気候変動への適応                       |
| <input type="checkbox"/> 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス                                 | <input checked="" type="checkbox"/> グリーンビルディング（環境配慮型ビル） |
| <input type="checkbox"/> 発行時には知られていなかったが現在 GBP カテゴリへの適合が予想されている、又は、GBP でまだ規定されていないその他の適格分野 | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：                  |

GBPの事業区分に当てはまらない場合で、環境に関する分類がある場合は、ご記入ください：

## 2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

### <本フレームワークについて>

対象事業は ANA グループの環境に関する基本的な考え方、環境方針及び中長期環境計画に則ったものとなっている。

対象事業は、十分な環境改善効果が見込め、環境面や社会面における潜在的にネガティブな効果に対する配慮がなされている。

プロジェクトの評価と選定は、本トレーニングセンターの環境性能を踏まえ、財務部門と CSR 部門で協議され、最終的に「グループ・CSR・リスク・コンプライアンス会議」にて確認が行われており、妥当なプロセスを経て決定している。

以上より、本フレームワークにおける対象事業の選定のプロセスは、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に則ったものとなっていると判断した。

### <本グリーンボンドについて>

本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、プロジェクトが選定される予定であることを確認した。

R&I は、本グリーンボンドのプロジェクトの評価と選定のプロセスは、明確かつ合理的であり、優れていると判断した。

## 評価と選定

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 十分な発行体の環境面での持続可能性に係る目標がある            | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、定義された事業区分にプロジェクトが適合すると判断される      |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの適格プロジェクトを定義した透明性の高いクライテリアがある | <input checked="" type="checkbox"/> 文書化されたプロセスにより、プロジェクトに関連する潜在的な ESG リスクは特定・管理される |
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定のためのクライテリアの概要が、公表される     | <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：   |

## 責任およびアカウンタビリティに関する情報

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 外部機関の助言または検証を受けた評価／選定基準である | <input checked="" type="checkbox"/> 組織内で定められた評価基準である |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）：              |  |

### 3. 調達資金の管理

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

#### <本フレームワークについて>

ANA ホールディングスは、調達資金が対象事業に充当されるよう、内部システムにて追跡管理を行い、グリーンボンドの償還まで、対象事業への充当額が調達資金を上回っていることを定期的に確認する予定である。調達資金の管理方法は、適切に定められている。

対象事業への充当計画は、調達から1年以内に充当される予定であり、適切に定められている。

未充当資金は、譲渡性預金等、安全性・流動性の高い資産で管理される予定であり、適切な計画が定められている。

以上より、本フレームワークにおける調達資金管理の方針は、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に則ったものとなっていると判断した。

#### <本グリーンボンドについて>

本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、調達資金が管理される予定であることを確認した。

R&I は、本グリーンボンドの調達資金の管理方法は、適切に定められており、優れていると判断した。

調達資金の追跡管理：

- グリーンボンドの調達資金は、発行体により適切な方法で分別又は追跡管理される
- 未充当資金について、想定される一時的な運用方法の種類が開示される
- その他（明記ください）：

追加的な開示：

- 将来の投資にのみ充当
- 個別単位の支出に充当
- 未充当資金のポートフォリオを開示する
- 既存および将来の投資に充当
- ポートフォリオ単位の支出に充当
- その他（ご記入ください）：

## 4. レポーティング

セクションに関する全般的なコメント（該当する場合）：

### <本フレームワークについて>

本グリーンボンドのレポーティングは、年に一度、ANA ホールディングスのウェブサイト及びアニュアルレポートにて開示される予定である。その内容は資金充当状況レポーティングと対象事業のインパクト・レポーティングであり、妥当な内容となっている。

以上より、本フレームワークにおけるレポーティングは、グリーンボンド原則 2018 及び環境省のグリーンボンドガイドライン 2017 年版に則ったものとなっていると判断した。

### <本グリーンボンドについて>

本グリーンボンドは、発行体が定めた本フレームワークに基づき、レポーティングが行われる予定であることを確認した。

R&I は、本グリーンボンドのレポーティング方針は、内容、頻度の面から優れていると判断した。

調達資金の使途に関するレポーティング：

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個別債券単位              | <input type="checkbox"/> その他（明記ください）：    |

### レポーティングされる情報：

- |  |   |
|--|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 充当した資金の額 | <input type="checkbox"/> 投資総額に占めるグリーンボンドによる調達額の割合 |
|--|---|

- その他（明記ください）：

### 頻度：

- |  |                                |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）：  |                                |

環境改善効果に関するレポーティング：

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクト単位 | <input type="checkbox"/> プロジェクトポートフォリオ単位 |
| <input type="checkbox"/> 個別債券単位              | <input type="checkbox"/> その他（明記ください）：    |

### 頻度：

- |  |                                |
|--|--------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 年次 | <input type="checkbox"/> 半年に一度 |
| <input type="checkbox"/> その他（明記ください）：  |                                |

### レポートされる情報（計画又は実績）：

- |   |  |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 温室効果ガス排出量／削減量 | <input type="checkbox"/> エネルギー削減量  |
| <input type="checkbox"/> 水使用量の減少                  | <input checked="" type="checkbox"/> その他 ESG 指標（明記ください）：エネルギー使用量（原油換算：万 kl）、エネルギー種類別使用実績（電力：kWh/ガス：m <sup>3</sup> ）、太陽光発電による発電量（kWh）、水道使用量（m <sup>3</sup> ）、全機材に占める省燃費機材のシェア（%）（ANA ブランドのみ）、有償輸送トンキロ当たり CO <sub>2</sub> 排出量（kg-CO <sub>2</sub> /RTK）（国内線・国際線合計）（ANA ブランドのみ） |

### 開示方法

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 財務報告書に掲載   | <input type="checkbox"/> サステナビリティ報告書に掲載                          |
| <input type="checkbox"/> 臨時に発行される文書に掲載  | <input checked="" type="checkbox"/> その他（明記ください）：ウェブサイト、アニュアルレポート |
| <input type="checkbox"/> レポートは外部レビュー済（該当する場合は、レポートのどの部分が外部レビューの対象であるか明記してください）： |  |

該当する場合は、「有益なリンク」のセクションに、報告書の名称、発行日を明記してください。

### 有益なリンク（例えば、レビュー実施者の評価方法や実績、発行体の文書等。）

R&I グリーンボンドアセスメント評価方法

[https://www.r-i.co.jp/rating/products/green\\_bond/assessment.html](https://www.r-i.co.jp/rating/products/green_bond/assessment.html)

該当する場合は、利用可能なその他外部レビューをご記入ください

### 実施されるレビューの種類：

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン     | <input type="checkbox"/> 認証                 |
| <input type="checkbox"/> 検証            | <input type="checkbox"/> スコアリング/レーティング（格付け） |
| <input type="checkbox"/> その他（ご記入ください）： |   |

レビュー実施者：

発表日：

## GBP で定義された独立した外部レビュー機関の役割について

- (i) セカンドオピニオン：発行体の支配下でない環境面の専門性を有する機関がセカンドオピニオンを提供する。オピニオンの提供者は発行体のグリーンボンドフレームワーク構築のためのアドバイザーから独立しているべきである。そうでなければ情報隔壁を設けるなど、セカンドオピニオンの独立性を確保するための措置をとることになる。オピニオンは通常はGBPへの適合性評価を基本とする。特に環境面での持続可能性に関する包括的な目標、戦略、方針、プロセスの評価と、調達資金を充当するプロジェクトの種類に応じた環境面の特徴に対する評価を含むことができる。
- (ii) 検証：発行体は、事業プロセスや環境基準などに関連づけて設定する基準に対して独立した検証を受けることができる。検証は、内部基準や外部基準あるいは発行体が作成した要求との適合性に焦点を当てるものになる。また原資産の環境面での持続可能性に係る特徴についての評価を検証と称し、外部クライテリアを参照することがある。さらにグリーンボンドで調達される資金の内部追跡管理方法とその資金の充当状況、環境面での影響、GBPのレポートとの適合性に関する保証や証明も検証と呼ぶことがある。
- (iii) 認証：発行体は、グリーンボンドやそれに関連するグリーンボンド・フレームワーク、または調達資金の使途について、一般に認知されているグリーン基準やグリーンラベルへの適合性に係る認証を受けることができる。グリーン基準やグリーンラベルは具体的なクライテリアを定義したもので、通常は認証クライテリアとの適合性を、検証などの手法を用いて、資格認定された第三者機関が確認する。
- (iv) スコアリング/レーティング（格付け）：発行体は、グリーンボンド、それに関連するグリーンボンド・フレームワーク、調達資金の使途などの特徴について、専門的な調査機関や格付機関の資格を有する第三者機関から、それぞれの機関が確立した評価手法に基づく査定や評価を受けることができる。評価結果には、環境面のパフォーマンスデータ、GBPに関連するプロセス、2°C目標のようなベンチマークなどに焦点を当てたものが含まれることがある。このようなスコアリングや格付は、信用格付（たとえその中に重要な環境面のリスクが反映されているとしても）とはまったく異なったものである。